平成29年度第4回市営保育所移管先選定部会 摘録

日 時：平成29年6月21日（水）午後7時00分頃から午後8時45分頃まで

場 所：こどもみらい館 第2研修室

出席委員：安保千秋，岡美智子，川北典子，清水智，土江田雅史（敬称略：五十音順）

※計5名（委員欠席者なし）

【三宅保育安全対策推進課長】

それでは、時間がまいりましたので、ただ今から、平成29年度第4回市営保育所移管先選定部会を始めさせていただきます。皆様方におかれましては、大変御多忙のところ御出席を賜り、誠にありがとうございます。私は本日司会を務めさせていただく幼保総合支援室保育安全対策推進課長の三宅と申します。よろしくお願いいたします。

会議の開催に先立ちまして、携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくかマナーモードに設定していただきますよう御協力お願いいたします。

本日の会議につきましては、市民の皆様には議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしておりますので、あらかじめ御了承いただきますようよろしくお願いいたします。また、本部会は委員数5名のところ、全委員に御出席いただいておりますので、本部会が成立していますことを御報告させていただきます。

それではまず、本日の資料の御確認をお願いいたします。1点目が『募集要項（案）の主な修正箇所』、2点目が『第4回選定部会における審議事項』、3点目が『最低点の設定に係る他都市の状況及び他制度の考え方』、4点目が『引継ぎ・共同保育の前倒しについて』、5点目が『市営保育所移管先法人等募集要項（案）』、でございます。不足等はございませんでしょうか。

本日は、移管先法人等募集要項案について、御審議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは安保部会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。安保部会長、よろしくお願いいたします。

【安保部会長】

それでは、以後、私の方で進行させていただきますので、御協力をよろしくお願いいたします。

本日は、募集要項案について、第2回選定部会で継続して審議することとしておりました最低点の設定や、修学院保育所及び淀保育所の保護者の方との意見交換で頂戴しました御意見の取扱いについて審議し、募集要項を検討していきたいと思っております。

それではまず、募集要項案の変更点について、事務局から説明をお願いします。

【村上公営保育所担当課長】

募集要項案の主な修正箇所について御報告させていただきます。

資料1及び資料5を用いて御説明いたします。資料1では募集要項案の主な修正箇所を、資料5は募集要項案について記載しています。

まず、今回の資料より具体的な保育所名を入れ、修学院保育所と淀保育所の募集要項案を分けております。

今回の修正箇所につきまして、資料5の3ページ及び27ページを御覧ください。「4 移管先候補者の選定等」の「(3) 移管先候補者の選定等の公表」についてでございます。

まず1点目に、選定結果の公表につきましては、事務局案として、申請者とその得点がリンクしない形での公表を提案させていただいておりましたが、審議の結果、前年度までと同様に申請者と得点を公表することとなりましたので、公表方法について修正しております。

2点目に、「移管後の運営に係る基本事項」における「Ⅱ保育内容等」の「年間行事」の項目につきまして、第2回選定部会においては、市営保育所において行事内容を変更することがあるため、「原則」を追記すると御説明いたしました。しかし、原則という表現では、移管前の行事内容が遵守されない可能性があるため、但し書きで具体的に表現すべきという御意見をいただきましたので、但し書きの表現に変更しております。変更に伴い、52ページ及び54ページの「様式C」の項目も、「ただし、変更がある場合は三者協議会で協議すること」と変更しております。

行事については、第2回選定部会でも事務局からお話しいたしましたが、各市営保育所において多少の行事変更の可能性はあります。そのことを御理解いただいたうえで、今回の但し書きの変更により、三者協議会での説明を徹底していくよう考えています。

説明は以上でございます。

【安保部会長】

ただいまの事務局からの説明について、御質問はございませんでしょうか。選定結果の公表及び保育内容等の年間行事の変更についてでしたが、今回文言を工夫していただいたと思います。

〔質問なし〕

【安保部会長】

年間行事の変更について、移管前年度の行事を移管前の在園児が卒業するまで維持する場合、将来的に行事が変わることもあるので、そのような場合には協議のうえ、変更するということでした。その趣旨で間違いありませんか。

【村上公営保育所課長】

はい。

【安保部会長】

それでよろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

それでは、以上2点について確認いたしました。

続いて、募集要項案の審議に移りたいと思います。今回、事務局で審議事項、保護者の方々の御意見を整理していただいておりますので、御説明をお願いします。

【村上公営保育所担当課長】

まず、資料2を御覧ください。

本日の選定部会に持越しになっておりました審議内容と、第2回及び第3回選定部会で実施いたしました保護者の方との意見交換において頂戴した御意見について資料2でまとめております。

資料3及び資料4につきましては、審議が前回から継続となっております最低点の設定及び引継ぎ・共同保育の前倒しについて、第2回選定部会でお配りさせていただいた資料と同様のものですが、引き続き参考資料としてお付けしております。

資料4につきまして、補足で御説明させていただきたいのですが、第2回選定部会におきまして川北委員から、幼児及び乳児クラス担任予定者の引継ぎ実績が月2回になっているところを、週に1回にはできないかという御意見をいただきました。この点について、資料としては前回同様月2回と記載しておりますが、実際に事務局が昨年度引継ぎに従事した法人の職員に確認したところ、7～8月はプールがあるため、月2回よりも週1回の方が市営保育所でのプールの体制などを実際に確認することで引継ぎ、学ぶことができるだろうという御意見でした。実際に来ていただければ子どもたちとの交流もできますので、十分メリットがあるとも伺っております。その点について補足として御説明させていただき、あらためて今回御審議させていただきたいと思っております。

説明は以上でございます。

【安保部会長】

ありがとうございました。それでは、資料2に従って、審議を進めたいと思います。まず、最低点の設定についてです。前回までの審議では、最低点の設定について他の自治体の事例の資料を集めていただいております。また、修学院保育所の保護者の意見としては過去3年以内に移管を行った法人の平均点をもとに139点か141点に定めることが妥当ではないかという御意見をいただいております。事務局に調べていただいた最低点の数字、京都市の指定管理者選定の他に参考になる数字はございませんか。

【村上公営保育所課長】

前々回この資料を提示させていただいてから、最低点に関して調べてまいりました

が、最低点自体を設定されていない自治体もあり、最低点を設定している自治体においても、明確な根拠は分からないという回答が多い状況でした。本市といたしましては、もともとこれまで最低点がなかったという点については、申請資格を京都市内の法人に限定していたということもあり、京都市内の民間園の保育を高く評価しているという理由もございます。ただし、応募が1件しかなかった場合の保護者の方の不安を解消したいという思いもございます。保護者の方々からいただいた御意見としては、高水準を維持するために高得点でなければ困るという趣旨もございますが、最低点の設定の場合、他都市等も参考に最低点と決めざるを得ないというのが現在の状況です。

【安保部会長】

ありがとうございました。この点について皆様の御意見を聴きたいと思うのですが、土江田委員いかがですか。

【土江田委員】

資料2に「平均点を基に139点か141点と定めることが妥当」と記載してありますが、百分率でいうと何パーセントくらいになりますか。

【村上公営保育所課長】

150点で割ることになるので、約92～93パーセントにあたると思います。

【土江田委員】

139点か140点というのは過去3年以内の審査に合格した法人の平均点ということでしたが、過去3年間の最低点は何点ですか。

【村上公営保育所課長】

これまでに審査した中での最低点は105点程度です。

【土江田委員】

105点ということはちょうど70パーセントですが、私の意見としては、私が関わっていた時代の国家試験などは60点で合格ということが公表されてきました。そのため最低合格点は60点を考えていました。移管については保護者の方の御要望もあると思いますが、最低点については足切りをするくらいが目安になると考えます。感覚的などころが大きく、科学的にこの数字が正しいと言えるかという点も難しいと思います。

今回の最低点に関して、私の感覚では7割を基準にされるのがよいのではないかと感じました。

【安保部会長】

ありがとうございます。川北委員はいかがですか。

【川北委員】

他都市の例があまり多くありませんが、7割が一番上だということから考えると、一番高い水準として、7割程度だと思います。そのほか各項目については、考えを合わせていく必要があると思います。

【安保部会長】

各項目というのは、小項目で0点がつく場合についてというような意味ですか。

【川北委員】

そうです。0点がつく項目というのはよほどひどい状況なのかという、その点に関する基準にもよると思います。

【安保部会長】

最低点の設定以外に、点数的な配分を見たほうがよいのではないかという御意見でした。岡委員はいかがですか。

【岡委員】

最低点を設定している都市と、設定していない都市があるということだったので、資料に掲載していただいているもののほかにも、色々あるということだと思いますが、設定している都市の中での最高の7割に合わせるというのが妥当だと思いました。他都市のデータはほかにもあるのですか。

【村上公営保育所課長】

こちらに挙げておりますのは政令市の状況ですので、政令市以外にも民営化している自治体もございます。そのようなところも見ておりましたが、最低点を設定されている場合、5～7割が多い状況でした。

【安保部会長】

清水委員はいかがですか。

【清水委員】

資料3に京都市の指定管理者選定が60パーセントということがありましたが、それと同じでよいかという疑問です。他都市では7割というところが多く存在することですので、7割程度を考えてよいと思います。最低点で合格してしまうところについて、そこを足切りするかどうかの判断はできませんが、他都市との比較というところで、7割としてみるということでもよいと思います。

【安保部会長】

ありがとうございます。修学院保育所の保護者の方には実際に点数を提示していただいておりますが、これは選定された法人の合格点の平均点ですので、これを最低点

というのは難しいと考えます。また、募集要項は過去からの変更を重ねてきており、実際に過去に選定された法人の点数だけでは単純に比較できないと思います。

御意見をいただく中で私自身考えておりましたが、最低点を足切り点とすると、他都市の状況を見ても7割が妥当ではないかと考えております。委員の方も同様の意見でした。ただ、先ほど川北委員から小項目等の点数で考えることもできるのではないかと御意見もありました。

清水委員はどのように考えられますか。

【清水委員】

昨年度に小項目の合計点が0点の中項目があれば選定しないとしていましたが、私としてはそれで問題ないと思っています。項目を見ると、基本的にはできていて欲しいことであり、いかにできているかという評価項目が多く、基本的なところで全然できていない所があると問題です。中項目が0点になるような法人は選定すべきでないと思っています。昨年度と同様に小項目の合計が0点の中項目があれば選定しないという条件をつけるべきと思っています。

【安保部会長】

前年度までの、小項目の合計点が0点の中項目がある場合は選定しないという条件を敢えてここで削る必要はないという御意見かと思えます。先ほど川北委員から項目について御意見いただいていたのですが、川北委員はいかがですか。

【川北委員】

それで結構だと思います。そこは残しておくべきだと思います。

【安保部会長】

岡委員はいかがですか。

【岡委員】

同様に考えます。

【安保部会長】

土江田委員はいかがですか。

【土江田委員】

総合点数だけではなく、各項目において偏っていないということも必要だと思います。

【安保部会長】

それでは、足切りという意味での合格最低点の設定については7割とし、前年度までの条件である、小項目の合計点が0点の中項目がある場合は選定しないという条件

もそのまま残すという形にしたいと思います。それでよろしいですか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次の議論に進みたいと思います。

資料2に戻りますが、募集要項案「3申請手続き」の「(5)著作権の帰属等」について、修学院保育所の保護者の方から「移管先法人が実際に計画どおりの保育をしているか保護者がチェックできるよう、保護者が求めた場合に、事業計画を公表することとしてほしい」という御意見をいただいております。この点についてはいかがですか。

【岡委員】

私の感覚からすると、事業所の事業計画や収支決算の会計はホームページなどで第三者を含めて公開しています。そうしている事業所の方が多いかと思います。事業計画は事業所のためにあるのではなく、利用者のためにあるべきです。保育所でしたら、利用者である子どもやその保護者のためにあると思いますので、透明性の観点から、第三者まで見られるものであるべきです。保護者会や家族会の懇談においては、一緒にやっ払いこうという姿勢から、事業所側が事業計画を共有して欲しいと保護者の方に言っています。また、事業所において赤字が出た場合は、今年度赤字になった理由を説明し、来年度に向けての改善点を説明しています。保育所において現在どのような状況であるか教えていただきたいです。

【安保部会長】

おそらくそれぞれの法人の事業計画や事業決算は公表されていると思います。法令に基づき、チェックや届出、手続きを経て公表していると思いますが、保護者の方の御意見は、法令の情報公開の条項に基づく事業計画の公表ではなく、募集をされた際の書面審査における事業計画の項目についてであり、どのような計画で法人か応募されたか見たいという趣旨だと思います。

【岡委員】

そうしましたら、市営から民営に変わるということは、非常に大きな変化であると受け止めて当然のことですから、なおさら事業計画を公表しないとする理由はないだろうと思います。

【安保部会長】

情報公開条例に基づく情報は公開されるのでしょうか。

【村上公営保育所課長】

個人名など公表できない箇所については隠した形になりますが、今後の審査に影響

がないようであれば公表はできるものと思います。

【川北委員】

公表するのは問題があると判断する部分があるということですか。

【村上公営保育所課長】

個人名を記載していただく欄などについては、本市の情報公開できないところですので、そういった部分については公表することができません。

【安保部会長】

清水委員はいかがですか。

【清水委員】

個人名の問題がクリアできれば、そのような形で公開するということがよいと思います。

【安保部会長】

土江田委員はいかがですか。

【土江田委員】

計画の部分ですから、個人名はあまり出てこないと思います。公表できないというような特別な理由はないと思います。京都市も公表の方向で進められるべきだと思います。

【安保部会長】

委員の意見としては公表したほうがよいというものになっていますが、事務局の方はいかがですか。

【村上公営保育所課長】

委員の皆様の審議の結果、公表になっても特に問題はございません。

【安保部会長】

そうしましたら、その旨を記載する場合、今回の募集要項のどこに記載することになるのでしょうか。

【村上公営保育所課長】

資料5の募集要項2ページの「(5) 著作権の帰属等」の項目の中になります。もともと保護者の方から御意見をいただいておりますので、こちらに記載することになると思います。審査中の公表はできませんので、「移管先候補者決定後に保護者の方が希望する場合は公表する」という形の文言がよいのではないかと思います。

【安保部会長】

いかがでしょうか。御意見ありませんか。

【土江田委員】

保護者に対してというのは、移管関係者だけに公表するということですか。一般に公開するのですか。

【村上公営保育所課長】

一般への公開は保護者の方がもともと望まれていることではなく、保護者の方は今後の運営の中でチェックしていきたいという姿勢ですので、この表現でよいかと思います。

【安保部会長】

そうしましたら、「3申請手続」の「5著作権の帰属等」の部分で、移管先決定後に保護者が希望される場合は、保護者に対して公開するという旨を記載するということを決めたいと思います。よろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

それではそのような形に決めたいと思います。

次に「移管に係る基本的事項」の「(1) 財産の引継ぎ」の「ア土地 (私有地)」の項目について、修学院保育所の保護者の方からは車寄せスペースについて、淀保育所の方からは駐車場の確保について御要望をいただいております。そのことについて、御意見をいただいた際に市の方にも確認しましたが、改めて事務局から車寄せスペースと駐車場について御説明いただきたいと思います。

【村上公営保育所課長】

まず、修学院保育所の車寄せスペースについて、本市でこの件についての詳しい資料が残っているわけではありません。保護者の方もおっしゃっていたとおり、保育所が建設される前年度に地域の方々に対して説明した内容は、駐車場の設置は考えておらず、あくまでも車寄せスペースであるという事実のみでした。あまり詳細なことはないにしろ、そのような事実は確認できました。その状況を踏まえ、修学院保育所では父母の会の御協力のもと、地元との関係を維持しているところであり、長時間駐車しない、回転を早くするといった形で御協力いただいております。

次に、淀保育所について、もともと駐車場はありませんでしたが、近くに京都市の土地があったため、そこに何台か駐車するスペースを確保しておりました。ただし、子ども若者はぐくみ局所管の土地ではなく、他局所管の土地でございましたので、今回の移管を機に、土地の所管を変えるよう手続きをしてまいりたいと考えております。

【安保部会長】

今の事務局からの説明についてはいかがですか。

昨年度も山ノ本保育所の移管の際、保育所の前の道路の交通量が非常に多いため、駐車するとすぐに駐車違反になるということで、保護者の方が非常に困っておられました。移管先候補者の方にもその点について十分検討していただくということになったと思います。送迎については保護者の方も大変困られると思いますので、今までの経過については十分に確認し、審査の際にも対応策を確認のうえ、結果に反映したいと思います。

ここで募集要項に含めるかということについて、その点について清水委員はどうお考えですか。

【清水委員】

車寄せスペースがなくなるとかなり不便になりますので、そのまま残していただく形をとればと思います。淀保育所の駐車場についてはかなり広い土地であると思うので、その土地を含めてお貸しするとなったときの金額についてどうなるのですか。

【村上公営保育所課長】

淀保育所の駐車場については、資料5の33ページにすでに駐車場として記載しております。約275㎡ですが、その部分は土地の貸付料に含んでいます。

修学院保育所は駐車場ではありませんので、駐車場という記載はしておりませんが、車寄せスペースの土地を含めて貸付料を算定しています。

【安保部会長】

車寄せスペースに関する過去の経緯や地域との関係については、移管先候補者を決定後に実際の引継ぎの中で十分引き継いでいただくという形で市の方から説明していただき、我々も選定する際に説明していきたいと思います。それでよろしいですか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次に、「5 移管に係る基本事項」の「(3) 三者協議会」について、「三者協議会の主催者や回数、開催場所が明確でないため、これを明確にするよう変更してほしい。」と保護者の方から御意見をいただいております。これに関しては、募集要項の別添5に記載があると思います。

【村上公営保育所課長】

資料5の46ページに別添5「市営保育所の民間移管に係る三者協議会について」の資料があります。こちらについては淀保育所になっておりますが、修学院保育所なら修学院保育所という形で、開催日、開催場所と開催頻度などを記載しております。

なお、開催頻度については年5回程度と記載していますが、臨時に開催することがあるということについて明記しております。

三者協議会に当たっては、設置要領を保育所ごとに定めており、事務局が京都市であるということについて明記しております。

以上のようなことから、修学院保育所の保護者からいただいた御意見については現状の募集要項で補完できているのではないかと考えております。

【安保部会長】

それでは、三者協議会についての設置目的、協議事項、開催場所、開催時期や開催頻度については別添で特定されていると思いますので、募集要項「5 移管に係る基本事項」の「(3) 三者協議会」には「別添5 参照」という形の文言を入れていただき、それによって三者協議会の設定を明確に理解していただくという形でいかがですか。

【村上公営保育所課長】

別添5において、文言を記載しておりますので、それで十分かと思えます。

【安保部会長】

別添5で設置要項、設置の目的、構成、協議事項、設置時期、開催頻度、設置期間、開催場所、傍聴についてもれなく書かれていると思います。この形でよろしいでしょうか。清水委員いかがですか。

【清水委員】

問題ないと思えます。

【安保部会長】

次に、「7 移管後の運営に係る基本事項」について、修学院保育所の保護者の方から、現在は重大な違反の場合、損害賠償請求や再移管を行う場合があると書かれていますが、「重大な違反だけではなく、軽微な違反を犯した場合の罰則として、京都市間保育園職員給与等運用事業（プール制）における京都市の人件費補助の支給停止を行う場合があることを追記してほしい。」との御意見をいただいております。

これについて、プール制は別の団体が運営をされているということですので、こういう対応が可能かどうかを事務局に伺いたいと思えます。いかがでしょうか。

【村上公営保育所課長】

安保部会長がおっしゃったように、この助成金については、本市から保育園連盟にまとめてお渡しし、その中から支給されるものですので、本市の方から支給を停止することはできません。

【安保部会長】

保護者の方の御意見としては、違反があった場合に何か制裁がないと心配であると

いう趣旨であると思います。ただ、再度「移管後の運営に係る基本事項」を確認していただきたいのですが、軽微な違反であっても、京都市または保護者から損害賠償請求をすることがあり得るということ、損害賠償請求に応じることという記載がありますので、必要な措置を取ることのできる基本事項になっております。保護者の方には御意見をいただきましたが、そういった条項があるので、別団体のことに関して制裁手段として記載するのは難しいということで、御意見をいただいた京都市民間保育園職員給与等運用事業における本市の人件費補助の支給停止については追記しないということではいかがでしょうか。川北委員いかがですか。

【川北委員】

問題ないと思います。

【安保部会長】

岡委員いかがでしょうか。

【岡委員】

賛成です。

【安保部会長】

他の委員もそれでよろしいですか。

【全委員承諾】

【安保部会長】

それでは、保護者の方から御意見をいただきましたが、今回は記載しないという形で、個々で確認したいと思います。

次に、小規模保育施設との連携協定について、修学院保育所の保護者の方から「小規模保育施設との連携協定を現在の内容で再度締結するよう、基本事項に追記して欲しい。」という御意見をいただいております。この点についてはいかがでしょうか。

清水委員いかがですか。

【清水委員】

小規模保育施設と保育所の間で結んでいるものなので、移管後に小規模保育施設が希望しないのであれば、無理に連携する必要はないと思います。移管する園に関しては、移管前の連携を維持するというところを基本にすればよいと思います。

【安保部会長】

連携は3つの項目があると前回御説明いただきましたが、小規模保育施設の方が連携を望まれるかどうかという点があると思います。小規模保育施設が連携を望まれた場合は引き続き連携を行うという内容を記載するというところではいかがでしょうか。

岡委員いかがですか。

【岡委員】

小規模保育施設が望むのであればということの基本事項に追記するという事で同意します。

【安保部会長】

川北委員いかがですか。

【川北委員】

先ほど清水委員がおっしゃったように、少なくとも移管先の保育所には現状どおり連携していただくことを示すことが必要だと思います。

【安保部会長】

清水委員いかがですか。

【清水委員】

小規模保育施設が望んでいるのであればという部分が基本にあるのですが、移管先には現状を維持していただかなければならないので、維持されるべきだと思います。現在の連携状況を維持するという形で問題ないと思います。

【安保部会長】

現在連携している小規模保育施設が引き続き連携を希望する場合は今までどおりの連携をするということを記載するという事でよろしいですか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次に、保育士について、保護者の方から要望がございました。この点については大切なことだと思いますが、対応が可能かどうかを事務局にお伺いしたいと思います。

【村上公営保育所課長】

これまで、法人の申告に基づいて確認するという事を御説明しておりました。ただし、御意見にあったように実際に書面で確認することについて、最近ではキャリアアップ等保育の制度の関係でも、就労年数等が問われることがあり、その場合には就労証明書を添付することとしています。配属される方の就労証明を提出いただければ、勤務していた園が途中で代わるなどしていても、経験年数を確認できると思います。

【安保部会長】

経験年数は書面で確認できるということですが、この点について川北委員いかがで

すか。

【川北委員】

経験年数は関わった年数であり、保育士の資質や実力を測るものではないとは思いますが。「経験年数＝保育のレベル」として判断できるかどうかは難しいところだと思います。年数を一定の目安として考えることが可能であれば、就労証明等の書類で提出いただき、どれ位の経験年数の保育士が何人いるかという形で職員を見ていくことができるという点は理解できますが、個人的な感覚としては経験年数と保育の水準がひとつの基準として繋がるとは思えません。少し難しいと思います。

【安保部会長】

経験年数に関しては、移管時に就労証明書を提出いただくことによって、確認できるということでしたので、経験年数は京都市に確認していただくということでしょうか。

また、次の保護者の御意見として、「平成29年度時点における修学院保育所の保育士の経験年数、障害児保育経験年数、乳児保育経験年数を下回らないこと」という項目を追記して欲しいという御意見がありましたが、京都市の公営保育所では経験年数が長いと聴きましたが、それについて事務局はいかがですか。

【村上公営保育所課長】

公営保育所と民間保育所では平均勤続年数が異なっており、民間移管するに当たっても、平均勤続年数の差は人件費に結びついている状況です。そのように異なった状況で、経験年数を下回らないように設定することは非常に厳しいことでもあり、我々としては就労証明書をもとに一定の経験年数を確保したうえで、移管後の運営に係る基本事項の中で保育士の勤務年数や要件を定めています。民間移管に当たって現時点では以上のように考えています。

【安保部会長】

川北委員の御意見では、この点について勤務年数と保育の内容を直結するのは難しいという御意見でした。

【川北委員】

事務局の方で示していただいているような一定の経験年数で職員数ということと、保育の質を落とさないというところを基準として見ていくしかないと思います。

【安保部会長】

この点について清水委員はいかがですか。

【清水委員】

川北委員がおっしゃっていましたが、保育園の体制はバランスが重要だと思います。

平成29年度時点の保育士の経験年数で限定した場合、年齢の高い人ばかりで運営しなければならなくなります。極端な話ではありますが、そうなってしまうのは間違いだと思います。保育園の運営はずっと続きますので、組織としてある程度バランスを取っていくべきだと思います。長い目で見るとそれが質に直結すると思います。現時点での経験年数を下回らないことというのは当てはまらないと思います。

【安保部会長】

保育士の勤続年数や年齢のバランスは書面審査において重要であると考えています。書面審査の様式19「保育士（正規職員）の人数」、20「保育士の勤続年数」では現在の施設の保育士の人数や経験年数を確認しており、32-1～3「職員の配置計画①～③」においても審査します。さらに、審査の際にはかなり細かく評価させていただいてきました。そこで、さらに十分審査し、バランスのよい職員配置等を丁寧に評価したいと思いますが、いかがでしょうか。

今回乳児保育経験のある保育士を2名以上ということで基本事項に付け加えたので、その点については書面審査の職員の配置計画の箇所で乳児保育の経験のある保育士の配置について書いていただくようにし、実際に基本事項が守られるような形で計画が立てられているか確認したいと思いますが、いかがでしょうか。土江田委員いかがですか。

【土江田委員】

経験年数や清水委員がおっしゃっていた経験年数と年齢のバランスは重視して見ております。必ずしも移管に係る手続きに限らず、保護者が経験年数の豊富な方を望まれるというのはよくあることです。若い保育士も新しい教育で新しい技術を身につける方が出てくるということや経験年数以外のメリットもあると思います。そのため、現時点での経験年数を下回らないことという記載は必要ないと思います。

話は戻りますが、就労証明について、他の県で働いていた場合でもそこまで遡及して準備されるということですか。例えば30年前に北海道の保育園で保育士として3年勤務したという場合、その北海道の保育園に要求されるということですか。

【村上公営保育所課長】

保育士であれば、その法人での勤務が7年以上か経験10年以上と記載しております。最大10年以上ということなのでそこまで遡らなくてもよいとは思いますが、ただ、最低10年分は必要になります。

【土江田委員】

その条件を満たしているかということですか。

【村上公営保育所課長】

可能な範囲では求めます。

【土江田委員】

わかりました。後段部分は必要ないというのが私の意見です。

【安保部会長】

岡委員いかがですか。

【岡委員】

障害児保育経験年数も挙がっているのですが、障害者の状況というのは非常に変化してきているので、障害児を育てていくスキルも障害児特性に応じ、日進月歩進んでいます。申し訳ないのですが、古い障害者観をもって古い保育をされる方よりは、最新の知見を取り入れて意欲的に学び、身体もよく動く若い職員の方が望ましいと思われる場面も多々あります。そのため、障害児保育に限らず、記載する必要はないと思います。

【安保部会長】

ありがとうございます。先ほど川北委員がおっしゃった勤続年数と保育の質が直結しないという御意見と同じ趣旨の御意見だと思います。

今回皆様の御意見を集約すると、項目については追記しないということによろしいですか。ただし、今までも丁寧に申請者の現時点での職員の年齢構成等も確認してまいりました。これからも事業計画の中の職員配置バランスについて丁寧に審査にあたるということによろしいですか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

先ほど、「移管後の運営に係る基本事項」において乳児保育経験者2名の配置を追記したので、配置計画の部分ではそれについての記載を確認するということを提案しましたが、それによろしいですか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次に、「Ⅰ保育所の運営」の「Ⅱ職員について」に関しまして、修学院保育所の保護者の方から7項目を追記してほしいと御意見いただいています。これに関して、修学院保育所の現状について、事務局から現状を御説明いただきたいと思います。

【村上公営保育所課長】

その前に、職員の部分で淀保育所の保護者の御意見がございましたので、その部分について御審議いただいてもよろしいでしょうか。

【安保部会長】

項目を飛ばしてしまい失礼しました。

淀保育所の保護者の方から正規保育士の確保を行ってほしいという御意見をいただいています。この点について、現状はいかがでしょうか。

【事務局】

京都市におきましては、基本的には配置基準に基づく正職員を配置しており、年度途中入所に対応するための増員や産休又は育休代替についてはアルバイト職員を配置しておりますので、各保育所で全員が正職員ではないという現状でございます。また、時間外保育を実施している場合は嘱託職員を配置しており、朝夕のみや夕方のみといった勤務形態の職員もいる状況です。

【安保部会長】

淀保育所の保護者の方々の御意見の趣旨については、先日直接お伺いさせていただいたところですが、川北委員はいかがでしょうか。

【川北委員】

子どもたちと関わっていくに当たり、当然、主に関わる職員は正規であるべきと思いますが、保育所は非常に保育時間が長いので、どのように職員の配置をし、勤務時間等を調整するかというのは、それぞれの園で調整しなければいけませんので、そのような事情も考えざるを得ないとも思っています。

【安保部会長】

職員の配置計画もありますので、できるだけ正職員で適正な配置を行うことを重視してまいりたいと思いますが、「全員が正規の保育士」ということは、勤務時間や休みなどを考えると難しいというような御意見もいただきましたので、この点については募集要項に含めないという形ではよろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次に、職員の育成について保護者の方から御意見をいただいています。この御意見について、修学院保育所の現状を説明お願いいたします。

【事務局】

まず1つ目の項目につきまして、京都市におきましては、非正規職員を雇用する場合、正社員登録制度といったものは設けておりません。正職員は採用試験を受けていただいたうえでの雇用となります。また、2つ目の項目の「職員の評価に360度評価の一環として保護者の目線を加えること」につきまして、これまで移管した保育園に確認しましたが、特に保護者の目線で定期的に評価していただいているとは聴いて

いない状況でございます。

3つ目の項目につきまして、保護者の方から苦情があった職員については、当然指導等を行っているところでございますが、改善が見られない場合は保育士以外の業務に就かせるという処置に関しましては、全く別の物でもございますので、そういった対応はしておりません。

4点目の「エピソード研修を実施すること」につきまして、昨年度の募集要項から京都市の階層別研修に参加していただくこととしております。階層別研修の中でエピソードの研修もございますので、現状の枠組みの中で実施できると考えております。

5点目につきまして、丁寧な言葉で話しかけることという記載ですが、いろいろな状況に応じた話し方をしておりますので、常にこういった言葉を使うということはいない状況でございます。

6点目の「子どもに対してきちんとした挨拶をすること」につきましては、問題なく行っており、7点目の「担任しているクラス以外の子どもの名前も覚え、保育士全員が子どもの情報を共有してクラスを超えた関わりを持って保育すること」も当然実施しておりますので、実際に御意見頂いている中で現状実施している項目は、4、6、7項目であり、継続して実施していただく必要があると考えております。

【安保部会長】

1～3項目目については、労務管理にも関わることであり、雇用形態や採用方法などを条件として定めることは難しいように思いますが、いかがでしょうか。

【土江田委員】

これは人件費にも関わることであり、配置転換などは当然のことながら、少なくとも募集要項に載せるものではないと思います。

【安保部会長】

清水委員はいかがですか。

【清水委員】

市で実施していないのであれば、新たに条件を設けるとするのは難しいのかと思います。

保育園も基本的には正職員として雇用したいと思いますが、方針や保育士が少ないということもあと思います。また、雇用自体も多様化しているという部分もありますので、募集要項には記載しづらいと思います。

【安保部会長】

岡委員はいかがでしょうか。

【岡委員】

職員の評価に保護者の目線を取り入れるということについて、保護者に対し非常に

よく対応してくださる方が結局評価されるということになりますが、保護者の評価が実際の保育内容の評価となってしまう恐れもあると思います。必ずそうだというわけではありませんが、そういうケースもあると思うので、研修などで職員の育成に努めていただければ、募集要項に記載することは必要ないと思います。

【安保部会長】

職員の育成については書面審査等でも丁寧に書いてもらうようにしております。どのように評価しているのか、どのように職員との意思疎通を図っているのか等に関して詳しく書いていただきますので、審査のうえで確認するというところで、1～3項目については募集要項に入れたい形よろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

4のエピソード研修については階層別研修に含まれており、階層別研修を受講していただくことになっていますので、実質すでに入っていることになります。今回はすでに含まれているので、募集要項には入れない形で確認したいと思います。

続いて、5～7項目について川北委員はいかがでしょうか。

【川北委員】

子どもに対する姿勢、保育に対する姿勢としては当たり前のことかと思いますが。ただし、丁寧に子どもに関わる保育士がいないのではないかと、乱暴な言葉遣いをする保育士がいるのではないかとという不安や懸念を保護者の方が持つておられるのであれば、言葉遣いや挨拶など必要なことをきちんと出来ることについて具体的に追記してもよいのではないかと思います。

【安保部会長】

追記するとすれば、具体的にどのような書き方がよいでしょうか。

【川北委員】

5つ目の項目の子どもに対して「～ですか」「～してください」などの言葉遣いについて、できてない保育士は多いと思います。それぞれの場面によると思うのですが、もっと親しく子どもと話したり、家庭での保護者のように話したりしているような言葉遣いをしている保育士、それが当たり前と考えている保育園も多いと思います。具体的といっても「このような言葉遣いでなければいけない」というような表現はできないと思います。子どもへの話し方や挨拶など、丁寧な関わり方をするというように保育士の心構えとして、敢えて書いておいてもよいかと思います。

【土江田委員】

1～7項目全般として、審査において確認した面もあります。実際7つ目の情報の

共有については、必ず実地審査のときに確認し、5つ目の言葉遣いについて、保護者の方の意見としては、「これが絶対的によい」ということかもしれませんが、一方で親近感がないなどの印象が出てくるかもしれません。子どもを大事にしているかどうかの問題だと思しますので、これは評価の中で、あるいは、園のアピールとして記載していただくということで対処すべき問題と考えます。募集要項に記載する項目としては馴染まないような気がします。

【安保部会長】

保護者の方の御意見としては、移管後の運営に係る基本事項に追記するというものです。移管後の運営に係る基本事項には、保育内容全般の項目において京都市の市営保育所のガイドラインを尊重するという記載があるので、この項目に追記するかどうかということですが、川北委員はいかがでしょうか。

【川北委員】

基本的にはガイドラインにある一人ひとりの子どもを大切にするといった部分に集約されると思っています。先ほど敢えて書くという表現をしましたが、この項目に追記する形は適切ではないとも思います。

【安保部会長】

保護者の方は移管先候補者の保育がどうなっているかというところを懸念されていると思いますので、書面審査における保育内容の項目において、考え方を書いてもらうという形で取り入れることもできると思います。内容としては、16-2の「保育の方針②」の項目や26-2の「運営計画②」の項目で、記載していただく具体例を追記し、審査の対象にするとともに、実地審査においても確認していくということでいかがでしょうか。

【清水委員】

募集要項の80ページの「保育の方針②」の項目に「どのような関わりによって」という表現があるのですが、記載していただく具体例を示せばよいかと思いますが、いかがでしょうか。

【安保部会長】

文言をどの部分に追記するかについては、考える必要があるかと思いますが、我々が審査できるように書面様式に記載していただく形で反映するというのでいかがでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

続いて、その他の項目に紙おむつか布おむつか選べるようにすること、また、献立

等について必要な言語で作成・配布することという御意見がございます。こちらについて、移管した保育所ではどのように取り組まれているのでしょうか。事務局で把握していることを教えていただけますでしょうか。

【事務局】

1点目のおむつについては、移管した保育所においても基本的には引き継いでいただいております。紙おむつか布おむつかどちらでもよいという状況になっております。

また、外国籍の方への献立やお知らせにおいて、必要な言語とございますが、市営保育所では英語の献立は作成していますが、それ以外の言語では作成しておりません。また、お知らせ等は日本語以外の言語では作成しておりません。実際に移管した保育所に確認しましたが、中国国籍の方がいる保育所がいくつかありますが、日本語でも大丈夫な方であるため、日本語のものを使っているとのことでした。ただし必要であれば作成するという事も聴いています。基本的におむつや献立等には対応していただいている状況でございます。

【安保部会長】

おむつについては保護者の方が心配されていますので、実地審査の際、選択制になっているかを確認したいと思います。言語に関しては、日本における少数言語の国籍の方がいる場合、対応が難しいところがあるのですが、文化的背景が異なる子どもさんがいらっしゃる場合の配慮についても書面審査で記載していただくことになっており、実地審査でも確認しておりますので、審査の過程で確認していくということでもよろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

次に、「保育所運営」の「その他」の項目で、修学院保育所の保護者の方から御意見をいただいているところがございます。淀保育所の保護者の方からも御意見をいただいておりますが、市の方から現状を御説明いただけますか。

【事務局】

1つ目の定期的に施設長と保護者会が話し合う時間につきまして、市営保育所ではそのような場は設けられておりません。日々の会話は当然あると思いますが、保護者会と所長が定期的に話し合う機会はない状況であり、ホールについては第2回選定部会において保護者の方もおっしゃっていましたが、随時お貸しさせていただいている状況です。保護者会を残すかどうかにつきまして、保護者会は保育所が存続についてお願いするものではありませんので、基本的には継続していただき、移管した保育所も御協力していただきたいと考えております。

3点目の連絡ノート等の関係は現在実施していることでもあり、4点目の送迎についても各保育室で行っている状況でございます。5～6番につきましては。市営保育

所の経営状況については説明しておりません。京都市全体として、財政難であるという大きな話については、説明会等で説明させていただいておりますが、各保育所の経営収支等は公表していないことでもあり、経営状況については説明していない状況です。

淀保育所保護者からの御意見につきましては、現在の市営保育所で実施している事であり、現状の維持を求めておられるものと考えております。

【安保部会長】

市の現状を報告していただきましたが、この点についてはいかがでしょうか。

移管後の運営に係る基本事項に入れるとすれば、保護者会の活動について、活動場所等が必要となりますので、園の運営に支障がない限りは使用を認める等の形で保護者会の活動を担保することは大切かと思えます。残りの項目について、経営状況の説明などは難しいのではないかと思います。川北委員いかがでしょうか。

【川北委員】

事務局からの報告にもありましたが、今現在実施していないことについて、項目として記載することは無理があるかと思えます。3、4項目目について、通常の保育において、当たり前なことだと考えています。市営保育所の保育のガイドラインを尊重していただくことを考えれば、日常の保育として当然のことかと思えます。

【安保部会長】

清水委員はいかがですか。

【清水委員】

先ほどの安保部会長の御意見について、保護者会活動はホール等を借りて行うものであり、ホール等は保育所の財産ですので、勝手に使用できるものではないと思えます。やはり使用を許可するかどうかは保育所の判断になりますが、移管後の園の方針によって使用を許可しないようにされると困りますので、明記しておくべきかと思えます。残りの項目については、日常されていることなので、追記するほどではないかと思えます。

【安保部会長】

ほかに御意見はございませんか。

保護者会との関係につきましては、実地審査の際にも必ずお聴きしている内容でもございます。保護者会が作成したチラシ等を貼るスペースがあるか等も確認させていただきますので、実際の審査において反映させていきたいと思えます。ホール等の利用については、保護者会から申請があった場合、保育所運営に支障がない範囲で提供することなどの形で盛り込んでいただくということによろしいでしょうか。

[全委員承諾]

【安保部会長】

本日は議論が途中になり、次回への積残しとなってしまいました。可能であれば、次回までに御意見をまとめてきていただき、スムーズに議論が進むようにしたいと思います。

本日議論できなかった項目に引継ぎ・共同保育の前倒しがございます。こちらについては、市営保育所の保育を引き継いでいただくうえで特に重要な項目であり、次回十分に審議したいと思いますので、次回までに御準備をお願いします。

時間が押してしまい、申し訳ありませんでしたが、以上で本日の審議を終了します。事務局に進行をお返しします。

【三宅保育安全対策推進課長】

本日も長時間にわたりまして御審議いただき、誠にありがとうございました。

以上で、平成29年度第4回市営保育所移管先選定部会を終了させていただきます。

委員の皆様には、この後事務連絡がございますので、しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

傍聴の皆様におかれましては、お忘れ物のないよう御退出ください。本日はありがとうございました。